

- 1 日 時 令和2年12月18日（金）13時20分～14時5分（第5校時）
- 2 場 所 小学部 第5・6学年1組教室
- 3 学部・学年 小学部 第5・6学年1組（単一障害学級）2名
- 4 単元名 「くっつきことばをつかって はなそう かこう」
- 5 単元設定の理由

○児童観

本学級は、第5学年の男児1名（児童A）、第6学年の男児1名（児童B）で編制された知的障害単一複式学級である。そのうち、児童Aは自閉症を併せ有している。2名とも日常生活スキルは獲得することができており、コミュニケーション面においては、自分の思いや考えを伝えたいときには相手に話しかけたり、紙に文字を書いたりすることができる。児童Aは自分の思いを一方向的に相手に話すことが多く、相手が自分の話を聞いていないときや相手に自分の話が聞こえていないときにも関わらず話し続けることがある。一方で、相手から話しかけられたときや相手が自分の問いかけに返答をしてくれたときには聞いておらず、会話が成立しないことも多い。児童Bは、周囲の人の状況をよく見ていたり、指導者の話を聞こうとしていたりする様子が見られるが、獲得している語彙の少なさや聞き取る力の困難さから話の流れに沿わない発言をしたり、「分かった。」と言っているにもかかわらず内容を理解していなかったりすることがある。

授業では、ホワイトボードに示してある「目標」や「すること」を指導者と一緒に読み、授業全体の活動を意識することができるようになってきている。また、初めて見る絵本や道具を用いた活動から授業に入ることによって、興味・関心をもって意欲的に取り組むことができる。しかし、同じ活動に対しては興味・関心の持続が難しく姿勢も徐々に崩れていくため、学習内容や学習活動に少しずつ変化をもたせる必要がある。児童Aは、高学年になったことを自ら意識して様々な学習に対して一生懸命取り組む場面が増えているが、勝手に自分のルールを取り入れようとすることがある。また、参観者がいるとパフォーマンスをして注目を集める様子が見られる。

児童Bは、指導者の意図を汲み取り、誠実に行おうとすることができるが、前述したように聞き取る力の困難さに加え、文字を読むことも苦手であるため、新しい指示や問題文をすぐに理解することは難しい。また、慣れていない集団や場所では、緊張して声が小さくなったり黙り込んだりすることがある。

国語科の「書くこと」の実態として、2名ともほとんどの平仮名、片仮名を書いたり読んだりすることができる。児童Aは、字を書くこと自体があまり好きではないが、4月の頃と比べて一日の振り返りシート（約20文字）を書く速さが上がっており、自分の名前もすべて漢字で書くことができるようになってきている。そのため、習っていない漢字でも自ら指導者に書き方を聞いて書こうとすることが増えた。児童Bは、小学校第1学年配当の漢字を半分程度覚えており、すばやく字を書くことができるが、誤字脱字が多く、音の聞き分けが苦手なため、口頭で伝えても衍字（語句の中に間違えて入った不必要な文字）になったり再び間違ったりすることがある。文の構成においては、2名とも助詞を間違えたり省いたりするため、相手に真意が伝わらないことが多々ある。児童A B間の会話においては、助詞を伴わずに単語のみでやり取りが成立していることが多く、文を用いて話す必

然性は低い状況である。

### ○単元観

本単元は、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（平成30年）に示されている、国語科3段階の（2）内容の「〔知識及び技能〕」の「ア（オ）文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。」の内容及び、国語科3段階の（2）内容の「〔思考力、判断力、表現力等〕」のB書くことの「エ 書いた語句や文を読み、間違いを直すこと。」の内容を扱う。

本単元では、助詞を用いた文づくりを中心に行う。助詞とは、単語に付加し自立語同士の関係を表したり、対象を表したりする語句の総称、すなわち言葉に意味を肉付けする語のことである。同じ文字の助詞であっても、助詞の前後の語句によってその意味や種類が変化するところに難しさが見られる。そのため、すべてを理解することは難しいが、正しく書けたり話したりしたときに自分の考えが相手へ正確に伝わる経験をたくさん積むことで、単語だけでなく文を作って伝えようとする意欲が芽生えることが期待できる。

本時では、冬季休業前全校集会で行う振り返り発表に向けて、9月から12月までの写真をもとに活動を振り返って簡単な文を作ることを目的として行う。学校生活の中で起こった出来事や体験したことについては、主語と述語が明確なものが多く、助詞に注力して考えることができる。また、最初に絵本「しろがくろのパンダです。」を読み、助詞が異なるとどのように文の意味が変わるのか視覚的に示すことで、その文に違和感を覚え正しい助詞を考える必然性が生まれやすい。絵本で助詞の重要性を確認した後は、児童の活動写真をアプリ「keynote」で加工し、間違いのある文を提示する。正しい助詞に変えると、もともとの活動写真に戻っていく様子を見せることで絵本の流れを再現する。最後にここまでの活動を踏まえて、好きな写真を見て文を作ることで、正しい助詞を意識した文づくりへとつなげる。

単元全体を通して、児童がお互いに書いた文字や文を読み合う活動を充実させることで「相手に自分の思いが正確に伝わる」ようにするための構文法を身に付けようとする意識の高まりが期待できる。

### ○指導観

指導に当たっては、研究テーマである「自ら気づき、考え行動できる授業づくり」を踏まえて、次の4点に留意した指導を行う。

- ① 学習活動を自らの机で行う場面、テレビ画面を見る場面、ホワイトボードに文字を書きに行く場面といったように、活動する内容と場所を明確化することで、意欲を維持しながら活動に参加できるようにする。  
（環境の構造化）
- ② 校内で統一して使用している「目標」、活動内容をナンバリングした「やること」、「振り返り」のカードの流れに沿って授業を展開することで見通しをもたせる。（スケジュールの構造化）
- ③ 前時に作成した助詞整理表を教室内に掲示して見れば分かるようにしておくことで、正しい助詞が分からない時の手掛かりとして確認できるようにする。（指導法の構造化）
- ④ 間違った文を書いた際に、気付くことができるように多くのイラストや写真を用意しておき、指導者が間違った文をホワイトボードで再現することで、自分が伝えたかったことと書いた文が異なっていることを視覚的に感じられるようにする。ここで留意することは、学級で使用している「失敗は成功のもと、すばらしいでスタンプ」表を準備しておき、間違いを否定的に捉えて学習活動が続けることが難しくなったときには、スタンプを押すことで気持ちの切り替えを促すように工夫する。

## 6 単元の目標

- 文の中における助詞の使い方により、意味が変わることを知ることができる。
- 書いた語句や文を読み、支援を受けながら間違いを正すことができる。
- 自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりしようとする。

## 7 指導計画 「くっつきことばをつかって はなそう かこう」全7時間

次	時	学習内容	育てたい資質・能力との関連		
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
1	2	くっつきことばを読んでみよう	◎	○	
2	3	くっつきことばをつかって書いてみよう (本時3/3)	○	◎	
3	2	学校生活を文で書いてみよう		○	◎

## 8 本時の目標

### (1) 全体の目標

- ・絵本を読む中で、誤った意味を伝えている助詞に気付くことができる。
- ・写真やイラストを使った支援を受けながら、間違えた助詞や文字を正すことができる。

### (2) 個々の目標

児童名	これまでの様子	目 標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本については、読み聞かせも自ら読むことも好きで、指導者が読むときは登場人物に合わせて声色を変えることを要求することがある。</li> <li>・文を作るときに格助詞の「で」(手段)(場所), 「を」(対象), 「に」(移動の到着点), 「が」(主語)を間違えることが多いが、本人の好きな言葉掛けをすることで訂正できる。</li> <li>「に」の使い方は間違っていることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせを見たり聞いたりして、間違っている文字(助詞)に気付き、指さすことができる。</li> <li>・文の間違い探しを行う中で、6文中3文は間違えた助詞を2回以内で正すことができる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の文字を読むことは苦手な飛べし読みすることが多いが、読み聞かせの方が内容を理解しやすく、楽しむことができる。</li> <li>・文を作るときに格助詞の「で」(手段), 「を」(対象), 「に」(対象であるものの到着点), 「へ」(移動の方向)を間違えることが多いが、「で」(手段)については一度間違えると意識して正しく書けることが増える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせを見たり聞いたりして、間違っている文字(助詞)に気付き、絵本内の空欄補充問題に答えることができる。</li> <li>・文の間違い探しを行う中で、6文中3文は間違えた助詞を1回以内で正すことができる。</li> </ul>

## 9 準備物

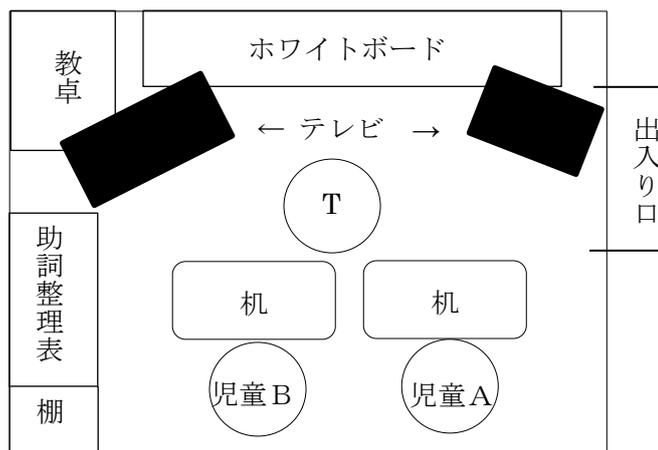
絵本，タブレット型端末2台，テレビ2台，写真，助詞カード，振り返りシート，助詞整理表，  
「今，何回目」カード

## 10 指導過程 別紙1

## 11 評価の観点

- 自ら気付き，考えて行動できていたか。
- 手立ては，適切だったか。（手立てについては，次の三つの観点とする。）
  - ・環境の構造化
  - ・スケジュールの構造化
  - ・指導法の構造化

## 12 配置図



学習活動	指導上の留意点 (課題, ○支援, ☆評価)		
	児童A	児童B	全体
1 挨拶 (1分)			○姿勢が崩れている場合は日直に確認させる。
2 本時の学習の流れと 目標の確認 (2分)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           目標： 正しいくっつき言葉を考えて書く。         </div>		○目標を書くときは児童が理解しやすいようにできるだけ短い文で書くようにする。 ○「冬季休業前全校集会」の振り返り発表に向けての活動であることを伝え、目的意識をもたせる。 ○活動の流れをナンバリングして板書で示し、児童に見通しをもたせる。(スケジュールの構造化) ○活動の流れを声に出して読ませることで、授業へ意識を向けさせる。
「すること」 ①絵本 ②間違い探し ③文づくり ④振り返りシート			
3 絵本 (12分) (1) 読み聞かせを聞く。 (2) 発問に答える。	絵本の読み聞かせを見たり聞いたりして、間違っている文字(助詞)に気付き、指さす。  ○指さした文字が合っているかどうか不安な様子が見られたら、助詞整理表で確認するように促す。  ☆絵本の読み聞かせを見たり聞いたりして、間違っている文字(助詞)に気付き、指さすことができたか。	絵本の読み聞かせを見たり聞いたりして、間違っている文字(助詞)に気付き、絵本内の空欄補充問題に答える。  ○空欄補充問題の回答に不安がある様子が見られたら、文を読みあげて確認させる。  ○飛ばし読みや読み替えする場合は、一文字ずつ目で追えるように指さす。 ☆絵本の読み聞かせを見たり聞いたりして、間違っている文字(助詞)に	○児童に考えさせたい文字や絵については、テープや色紙で隠すようにする。 ○すべて指導者が読み聞かせるのではなく、時折児童に読ませることで、助詞を意識させる。

		<p>気づき、絵本内の空欄補充問題に答えることができたか。</p>	
<p>4 間違い探し（17分）</p> <p>（1）問題を見る。</p> <p>（2）正しい助詞を書く。</p> <p>（3）書いた文を確認する。</p> <p>（4）正解を見る。</p> <p>（5）振り返りシートを記入する。</p> <p>（6）正解した写真を受け取る。</p>	<p>文の間違い探しを行う中で、6文中3文は間違えた助詞を2回以内で正す。</p> <p>○書かれた文字が間違っているときには、実物がある場合は実物で、ない場合は助詞カードや写真を組み合わせたり、ジェスチャーをしたりして違和感を覚えさせる。</p> <p>○自分のルールを取り入れようとした発言が見られた場合には、高学年であることを意識した言葉掛けをしたり、意図的に対応しなかったりして、活動に戻させるようにする。</p> <p>○間違いを否定的に捉えて学習活動が続けることが難しくなった際には、「失敗は成功のもと、すばらしいでスタンプ」表を見たり押したりする。</p> <p>☆文の間違い探しを行う中で、6文中3文は間違っている助詞を2回以内で正すことができたか。</p>	<p>文の間違い探しを行う中で、6文中3文は間違えた助詞を1回以内で正す。</p> <p>○書かれた文字が間違っているときには、間違えた文字を直接伝えるのではなく、再度、文を読みあげさせて、選択した助詞が正しかったか確認させる。</p> <p>○文の主語や動詞を変えようとしている場合には、やり方が間違っていないことを認めながら、今回は一文のみ訂正することを言葉掛けする。</p> <p>☆文の間違い探しを行う中で、6文中3文は間違えた助詞を1回以内で正すことができたか。</p>	<p>○児童の机の近くに問題を映すタブレット型端末をセットしたテレビを並べておき、指導者は教室の横もしくは後方から見守る。（<u>環境の構造化</u>）</p> <p>○個々の児童の苦手な助詞に合わせて問題文を作成しておく。</p> <p>○間違っている一文字のみを訂正するように言葉掛けする。</p> <p>○児童が難しいと感じるときには、前時で作成して教室内に掲示した助詞整理表を見てもよいことを言葉掛けして手掛かりを示す。（<u>指導法の構造化</u>）</p> <p>○児童が自己評価を正確に行えるように、何回目で正解できたか、どの助詞を間違えたかについて分かる振り返りシートを準備しておく。</p> <p>○正解した証として写真を渡し、達成感を感じさせる。</p>

<p>5 振り返り (12分)</p> <p>(1) 次時に向けて、 写真を選ぶ。</p> <p>(2) 助詞を入れる。 (次時に向けた、 実態把握)</p> <p>(3) 振り返りシート を記入する。</p>	<p>○文をつくりたい写真が選べないときは、本人が楽しそうにしていたエピソードを思い出せるように言葉掛けする。</p>		<p>○発表したい写真がない場合は、タブレット型端末内の動画等から選んでもよいことを伝える。</p> <p>○振り返りシートをもとに、次回の学習で気を付ける助詞を発表させる。</p>
<p>6 挨拶 (1分)</p>			<p>○姿勢が崩れている場合は日直に確認させる。</p>